

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 火・5	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生物の科学(生命現象と内分泌機能) Biological Sciences (Endocrine control of biological phenomena)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 長江真樹(環境科学部 / Eメールアドレス: <a href="mailto:nagae@net.nagasaki-u.ac.jp">nagae@net.nagasaki-u.ac.jp</a> / 研究室: 環境科学部 4階 461室 / オフィスアワー: 後期・月曜 9:00-10:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 生物の恒常性維持に欠かせない内分泌機構は、極めて複雑なシステムにより支えられている。本講義では、一見複雑に見える内分泌機構を特徴的な幾つかの生命現象と結びつけて解説することで、その機能を分かりやすく理解させる。  授業方法: 下記の授業実施計画に基づき、毎回一つの大きな生命現象を題材にして内分泌機構の関与を詳細に講義する。 授業到達目標: ホルモンの定義・特徴を他の生体機能と差別化して説明できるようになる。主要な生命現象を内分泌学の視点から説明できるようになる。ホルモンの測定に関する技術的な手法を明確に説明することができるようになる。ホルモンとフェロモン、あるいはホルモンと環境ホルモンとの違いを理解し、説明できるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) はじめに、ホルモンの基礎について概説した後、主要な生命現象を幾つか取り上げ、それら機能の発現に対して内分泌機能がどのように関わっているのかを詳説する。また、これらに関する研究で用いられている生化学的あるいは分子生物学的手法についても解説し、その特徴および長所・短所を解説する。  第1回 オリエンテーション 第2回 ホルモンの特徴 第3回 卵形成・卵成熟とホルモン-1 第4回 卵形成・卵成熟とホルモン-2 第5回 妊娠・出産とホルモン-1 第6回 妊娠・出産とホルモン-2 第7回 性分化とホルモン 第8回 精子形成とホルモン-1 第9回 精子形成とホルモン-2 第10回 下等脊椎動物の生殖機構とホルモン 第11回 ホルモンと環境ホルモン 第12回 外部環境要因とホルモン 第13回 ホルモンとフェロモン 第14回 ホルモンの測定技術 第15回 定期試験			
キーワード	ホルモン、内分泌、配偶子形成、環境ホルモン		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。		
成績評価の方法・基準等	レポート(20%) および定期試験 (80%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			